

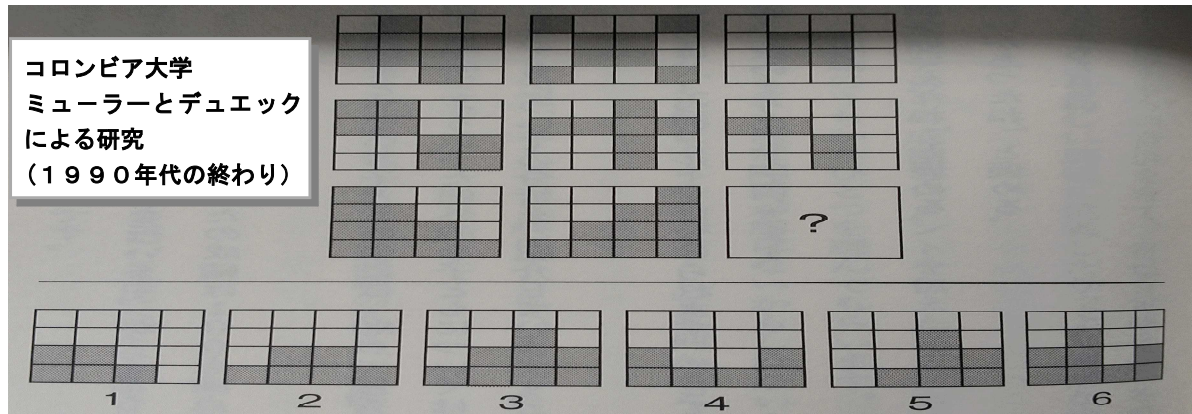
「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「挑戦する心を育てるためには」

Q: 「?」に当てはまる図形を1から6までの中より選んでください。



このテストのあと、「あなたの成績は100点満点中80点だ」と教え、成績以外に次のようなコメントも伝えた。

グループ1→「本当に頭がいいだね」とほめる
 グループ2→「努力の甲斐があったね」とほめる
 グループ3→何のコメントもしない



※上記の問題の答えは2

実験では、テストの成績とコメントを伝えた後、難しい課題とやさしい課題を与え、どちらかを選んでもらった。3グループに分けられた子どもたちの結果は次の通りであった。

	操作	難しい課題を選ばなかった子の割合
グループ1	頭がいいとほめる	65%
グループ2	努力したねとほめる	10%
グループ3	何も言わない	45%

「頭がいいね」とほめられたグループ1の子どもたちは、65%がやさしい課題を選び、何も言われなかったグループ3の子どもたちよりも、難しい課題を回避した割合が高くなった。「努力したね」とほめられたグループ2の子どもたちでは、やさしい課題を選択した子の割合が10%であった。「頭がいいね」とほめることが、子どもたちから難しい課題をやろうとする気力を奪い、よりよい成績を大人たちに見せられる課題を選択させるという圧力として働いたのである。

ほめ方には注意が必要で、その子のもともとの性質・能力よりも、その努力や時間の使い方、工夫したことに着目して評価することが、挑戦することをいとわない心を育て、望ましい結果を引き出す、と研究チームは結論付けている。他者との比較ではなく、その子の過去と現在を比べて伸びていることを伝えて、自己成長感を実感できるほめ方を心掛けたい。

※参照:「空気を読む脳」中野 信子 著



とれたて直送便



「今日できることは、明日に延ばさない!」

ヤクルトスワローズ等で監督を務めた野村克也監督は、「想像野球（試合前）、実践野球（試合中）、反省野球（試合後）と、監督は一日で3試合しなければならないんだ」と話していた。授業も、計画（授業前）、実施（授業中）、評価・改善（授業後）と、PDCAサイクルに基づいた授業づくりが求められる。あのイチロー選手は、「僕は1試合、1試合振り返っている。まとめて振り返ることはしない」と話していた。問題点はできるだけ翌日に持ち越さず、その日のうちに解決することが重要である。「いつやるか? 今でしょ!」